

新規事業採択時評価結果（令和4年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・技術課

担当課長名：長谷川 朋弘

事業の概要

事業名	地域高規格道路 銚子連絡道路 一般国道126号 山武東総道路三期	事業区分	一般国道	事業主体	千葉県
起終点	自：千葉県匝瑳市横須賀 至：千葉県旭市イ	延長	13.0 km		

事業概要
銚子連絡道路は、千葉県山武市と千葉県銚子市を結ぶ延長約30kmの地域高規格道路である。
一般国道126号山武東総道路三期は、地域高規格道路銚子連絡道路の一部を構成する道路であり、匝瑳市から旭市までの延長約13.0kmの道路である。

事業の目的、必要性
一般国道126号山武東総道路三期を整備することにより、山武東総道路と一般国道126号飯岡バイパス、事業中の八木拡幅が一体となり、銚子連絡道路の山武市から銚子市間が概成する。
銚子連絡道路の概成により、圏央道の整備効果を山武東総地域へ広く波及させ、県内外との交流・連携を強化し、地域経済の活性化や防災力の向上が期待される。

全体事業費	約301億円	計画交通量	8,500～12,000台/日
-------	--------	-------	-----------------



関係する地方公共団体等の意見
・地元自治体（銚子市、旭市、匝瑳市、東金市、山武市、大網白里市、九十九里町、芝山町、横芝光町）で構成される山武・東総地域広域幹線道路網整備促進期成同盟会から銚子連絡道路の早期整備の要望がされている。

学識経験者等の第三者委員会の意見
・千葉県県土整備公共事業評価審議会において、新規事業化は妥当であると了承。

事業採択の前提条件
・費用対便益：便益が費用を上回っている。
・地元自治体から早期整備の要望を受けており、また都市計画決定も完了（R3.8.31）するなど、円滑な事業執行の環境が整っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.6	総費用：217億円 （事業費：205億円 維持管理費：12億円）	総便益：351億円 （走行時間短縮便益：263億円 走行経費減少便益：67億円 交通事故減少便益：20億円）	基準年 令和3年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.5（交通量 -10%）	B/C=1.7（交通量 +10%）	
		事業費変動	B/C=1.5（事業費 +10%）	B/C=1.8（事業費 -10%）	
	事業期間変動	B/C=1.6（事業期間 +20%）	B/C=1.6（事業期間 -20%）		
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	○	・現道の交通の転換により、現道の交通混雑の緩和。 【混雑度の改善（国道296号入口交差点付近）】 混雑度 現況 1.58 → 整備後 0.95	
		事故対策	○	・現道の交通の転換により、交通事故が減少。 【死傷事故率】 並行する区間（一般国道126号 袋東交差点付近） 114件/億台キロ ※千葉県管理道路平均38.7件/億台キロ	
	歩行空間	—	・注目すべき影響はない。		
	社会全体への影響	住民生活	○	・第3次救急医療施設（旭中央病院）へのアクセス性が向上し、救急医療活動の支援が図られる。	
		地域経済	◎	・首都圏への農水産物の輸送時間が短縮され物流の効率化。 【銚子漁港から豊洲市場への所要時間】 所要時間 現況：153分 → 整備後：129分	
災害		◎	・救助活動救援物資の輸送機能の強化、代替性の確保など防災力の向上。		
環境		—	・注目すべき影響はない。		
	地域社会	◎	・圏央道に接続し、広域的な幹線道路ネットワークを形成することにより、山武東総地域と県内外との交流・連携の強化が図られる。		
事業実施環境	○	・都市計画決定完了（R3.8.31） ・地元自治体で構成される山武・東総地域広域幹線道路網整備促進期成同盟会から銚子連絡道路の早期整備の要望がされている。			

採択の理由

事業主体である千葉県が算出した結果に基づけば、費用便益比が1.6と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
また、県内外との交流連携の強化、交通混雑の緩和、救急医療活動の支援、防災等の効果が見込まれることから、当該事業の整備の必要性・効果は高いものと判断される。
以上により、本事業は令和4年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。